

▼一般会計決算の状況

区 分	平成27年度	平成28年度
歳 入 額	1352億8500万円	1370億円
歳 出 額	1331億7700万円	1351億2800万円
歳入歳出差引額 A	21億800万円	18億7200万円
翌年度繰越額 B	2億1400万円	2億5000万円
実質収支額 A－B	18億9400万円	16億2200万円
単年度収支額	5200万円	▲2億7200万円

※単年度収支額は前年度実質収支額との差額になります。

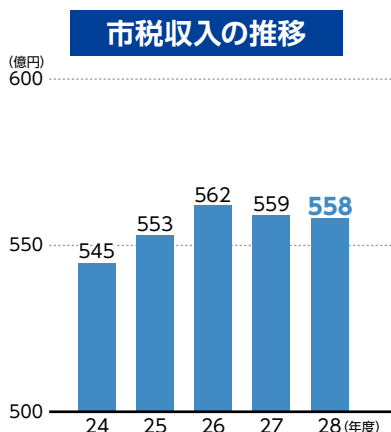
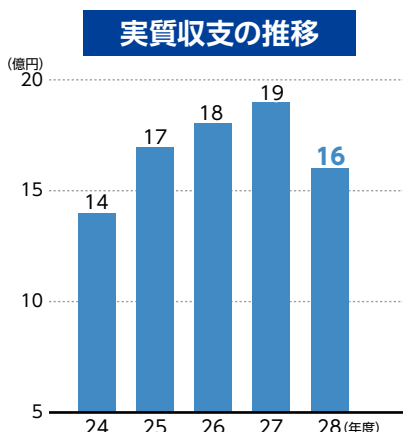
平成28年度決算速
実質収支は16
単年度収支は

⑤ 財政課云。

平成28年度一般会計の決算見込
みがまとまりました。歳入では地
方交付税や地方消費税交付金など
が減少し、歳出では国の臨時福祉
給付金給付事業や子ども医療助成
の年齢拡大などにより扶助費が増
加したものの、公債費や人件費が

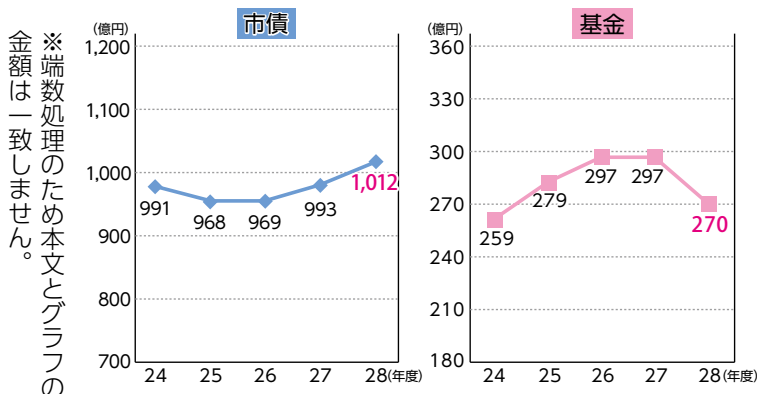
問 財政課 ☎ 841・1311、
FAX 841・3039

実質収支は16億円の黒字
単年度収支は3億円の赤字



減少しました。自治体の決算を表す実質収支は16億円の黒字を計上しましたが、単年度収支は3億円の赤字となりました。

普通会計の市債・基金現在高の推移

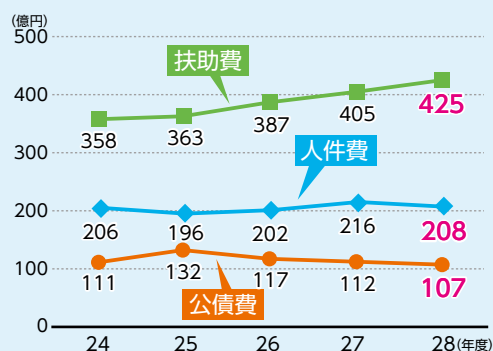


市債とは、多額の経費が必要な建設事業の単年度の負担を軽減し、計画的な財政運営を行うために国や銀行等から借りるお金のことです。このほか、地方交付税の不足分を補うための臨時財政対策債という借入金もあります。

平成28年度末の市債現在高は、7億円の繰上償還を行ったものの、前年度に比べて20億円の増加となりました。また、基金現在高は、27億円の減少となりました。

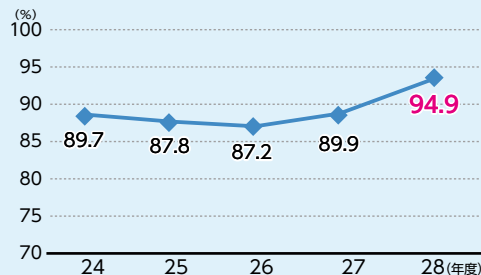
市債は20億円の増加

普通会計の人件費・扶助費・公債費の推移



経常収支比率の推移

財政の弾力性を示す財政指標。数値が低くなるほど自由に使えるお金が増えることを示しています。



※決算の詳細は広報ひらかた10月号でお知らせします。